

〈特別寄稿〉

「5・5・5」

(一財) 静岡県教職員互助組合
常務理事兼事務局長 石神 恒行

ゴッ・ゴッ・ゴッって？ 勤がいい方ならすぐにお分かりになったと思います。

そうです！今年は、令和5年5月5日と「こどもの日」が5並びだったのですね。

もともと5月5日は「端午の節句」で、男の子の健やかな成長や幸せを願ってお祝いをする日でしたが、1948年に子どもの幸せとお母さんに感謝する日として、「こどもの日」とし、祝日に決められたそうです。

そんなこどもの日を前に、総務省が人口推計から算出した子どもの数を発表しました。「15歳未満の男女は2022年4月1日時点で前年より25万人少ない1465万人で、1982年から41年連続で減少しており過去最少を更新した。男女別の内訳は、男子が751万人、女子が715万人となり、総数は、ピークだった54年の2989万人から半減し、70年代前半の第2次ベビーブーム前後で増えたもののそれ以降は減り続けている。」



この新聞記事からも、今後、ますます少子高齢化が進んでいくことは自明のことです。最近では、総理の「異次元の子育て支援」公約が注目を浴びておりますが、その秘策が功を奏するか疑問です。少子化は、所謂出生数が少ないということですが、日本も「子だくさんの先進国」イスラエルのように「子どもは神の恵み」という信仰心が生まれれば、異次元の子育て支援なんて必要なくなるのという浅はかな考えを持ったりしております。

そんな中、自分にも待望の孫が誕生しました。昔から、孫が可愛くてしょうがない！なんて言われますが、本当に可愛いものです。なぜ孫は可愛いのか？以前から、その理由を知りたかったのですが、それは諸説あるようです。一つに「心に余裕」ができるから、ということでした。心に余裕ができると人にやさしく接することができ、心の余裕は、人と関わる上でとても重要なことだということでした。そして、孫ができるくらいの歳になると、「時間的・経済的な余裕」ができてきて、子どもにしてあげられなかったことも、孫

にはしてあげることができるようになること。また一つには、体力が落ちていても甘やかすことができ、「惜しみなく手を掛ける」ことができるからだという輩もおりました。

そんな孫の寝顔を見ていると、我々大人たちは、日本の将来を担っていく子ども達のために、これまで以上に健やかに育ていける環境を整えていく必要があると強く思う今日この頃でした。

事務職員OBの皆様も孫と一緒に笑える日が増えるといいですね。



「のんびりと過ごしています」

静岡県教職員互助組合小笠支部 鈴木 貴子

今年の春の喜びは、昨年度末にいただいた、胡蝶蘭とデンドロビウムに花がついたことでした。蘭を育てるのが得意なご近所さんに教えてもらいこの春となりました。デンドロビウムは、もう終わってしまいましたが、胡蝶蘭は3つの株の花が少し時間をおいて咲いてくれそうなので長く楽しめそうです。庭の花も例年よりたくさんの花をつけているようで嬉しく眺めています。



昨年度は、職に就かず1年を過ごしました。勤めをしている時よりは畑や庭の草取りができます。しかし、夏は暑い。お隣のおばあちゃんは、私が「いくらとっても草が生えますね。」という「草も生えなきゃ仕事が無くなる。」と言っていました。その境地にはなかなかなれそうにありません。若い頃、夫の祖母の畑を見て、野菜畑というのは美しいなあ。と思いました。毎日少しずつ丹精している畑は美しいのです。私の場合は、1年間休みがあっても美しい畑にはなりませんでした。

雀やツバメをまだ見かけない頃に、道ばたで草取りをしていると、小鳥が私の後ろに近づいてきました。どうしてかなと思ってそちらを見ると、さっと舞い上がり木の下へ。また私が草を取り出すと降りてきています。草を取った後に迷い出る虫でも捕っているのでしょうか。人懐っこい様子の小鳥に一人にこにことしてしまいます。すぐに、鳥の図鑑で調べたのですが、これかと思った鳥は、名前が長く覚えられませんでした。黒い小鳥でしたが体の線に沿って白い線が入っていました。このごろは、見かけなくなりました。

この鳥のおかげで雀やツバメやカラス以外の鳥が目に入るようになりました。家の近くの田んぼが広がっているところに、サギが来ています。田んぼの中の道を通勤路にしているのですが、アオサギとチュウサギがよく来ています。アマサギらしき鳥が来ていたこともありました。たくさんの田んぼがあるのに、なぜかサギがいる田んぼは、いくつかに決まっています。夜、車のライトが田んぼの中にあるサギを照らしたときは、驚きました。鳥が来ているとなにかなと見てみるのですが、動きが速くてなかなか特徴がつかめません。職場では、毎日ウグイスとコジュケイの声を聞いています。

のんびりと過ごしていますが、月に15日だけ働くことにしました。脳科学、人工知能の研究者黒川伊保子さんの本によると、60代は、気づきの天才。脳の絶好調期なのだそうです。また、旅と習い事の好機とのこと。今までできなかった小さなやりたいことを楽しみたいと思います。今のところ習い事や旅行などいくつかはかなっています。先日、静岡大学の先生のお話を聞きに出かけた図書館で、一緒に採用された同級生に偶然会いました。とても嬉しく、生き生きとした友人は、まぶしく、刺激にもなりました。

「体力が残っているうちに」

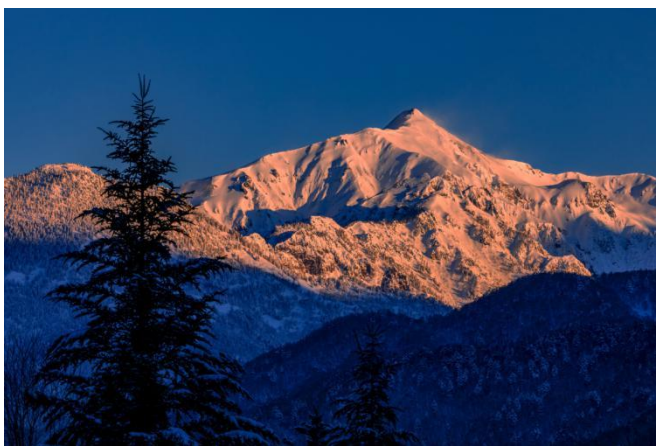
静岡県教職員互助組合浜松支部 原田 眞男

定年退職後、互助組合浜松支部にお世話になり2年が過ぎました。あと3年置いてもらうつもりですので、不祥事など起こさないよう精進して参る所存であります。

互助組合浜松支部が入っている浜松市教育会館は我が家から3km程度のため、自転車で通勤しています。そのために電動アシスト付きの新車を購入しました。しかし、通勤経路には登り下りが一切なく、アシストの便利さを実感する機会はほぼありません。これなら普通の自転車で十分でした。貴重な老後の蓄えを無駄遣いしてしまった！

それはさておき、去年は久しぶりに山登りを再開しました。夏には新潟の妙高山へ。数年間ほとんど登ってなかった割には順調で、軟弱な自転車通勤でも体力維持に多少の効果はあるもんだな、と自画自賛していたのも束の間、暑さで次第にペースが鈍り、またガスで景色も見えなくなって、登り続ける意欲が萎えてしまいました。そして頂上まで30分くらいと思われるあたりで雷の音が聞こえたため、これ幸いと引き返してきたという次第です。体力だけでなく、気力の維持・増進も今後の課題であると痛感しました。

実は25年前から登りたいと思いつけている山がありまして、それは北アルプスの笠ヶ岳です。1998年に立山 → 薬師岳 → 雲の平 → 新穂高と縦走した際、最後に登るつもりだったのに、1週間歩き続けて疲れ果てていたため省略してしまったのです。そのうちにまた行けばいいや、と呑気に過ごしてきて、ふと気が付けばもう老人。笠ヶ岳へ直接登る道はかなりの急登らしく、これ以上年をとると登れなくなりそう（既になっている？）なので、修行に励んで長年の心残りを解消したいと思っています。と自分を追い込むためにこの場をお借りして書いてしまいました。



笠ヶ岳（奥飛騨温泉郷観光協会のHPより借用）

令和5年度を迎えて

新年度を迎え、学校の慌ただしさを懐かしく思うと同時に順調な滑り出しを願うこの頃です。少子化の影響で学校の統廃合が加速しています。閉校となった学校の跡利用が市町の課題になっています。地域の拠り所である学校の多くは、災害の避難所になっています。閉校となった場合も避難所としての役割を持たせつつ、まちづくりのために他に転用するといった使い方をしている例があります。地域の一員として学校の再生プロジェクトに関心を持っていきましょう。本年度が、皆様にとって穏やかで実りあるものになりますように。

訃報について

お知り合いの方の訃報に接し、気持ちが落ち込む機会が多くなりました。そういう歳になったのは、間違いありませんが、残る人生をその人の分まで生きてみようとの心構えを持つようにしたいものです。

※ 若林清美様 病氣療養中でしたが、若くして人生を閉じました。(4年6月9日ご逝去) 静岡市や富士市の学校に勤務されました。(訃報に接した方 下記の連絡先に連絡をいただければ幸いです。会報に掲載させていただきます。)

書き損じ葉書寄付のお願い

皆様のお手元に書き損じた葉書がありましたら、郵送料の足しにできますので御手数ですが、連絡先までお送りください。

令和5年度の会費納入について

本年度も、会員数100名を目標にしています。一人でも多くの方に入会していただき目標をクリアしたいと思います。同封の払込書で納入していただくか現金を事務局に届けてくださってもかまいません。

編 集 後 記

会報第25号が多くの方々のご協力で発行することができました。年度初めのお忙しい中、原稿を寄せていただきました、石神様、原田様、鈴木様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

皆様の原稿から、心の持ちようや優しい眼差しを感じました。孫への温かい眼差しが、老人にも届けば、少子高齢化への対応の一助になるかもしれません。石神様、私たちの老後を守ってください。また、身近な草花や鳥に心を寄せ、和やかな雰囲気の中にしっかり自分を見つめている鈴木様、希望の山に登るためにこの会報を利用した上手の原田様、三者三様ですが、皆さん個性的で素敵です。

今後とも、皆様をつなぐこの会報をもっと身近にそして読み応えのあるものにしていきたいと考えています。また、この会への加入や会の運営など皆様の御支援御協力をよろしくお願いいたします。会報の感想や皆様の身近な話題等を掲載していきたいと思っておりますので、下記連絡先に原稿を寄せていただければ幸いです。

<連絡先> 静岡県教育会館内 県退職小中学校事務職員会事務局 岡田寿彦

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12 電話 054-252-1011